

NEC

帝京大学医学部附属病院に
ユニファイド・コミュニケーションシステムを導入

NECは、帝京大学医学部附属病院にFOMA/無線LANデュアル端末「onefone」を活用した大規模なユニファイド・コミュニケーションシステムを導入した。

帝京大学附属病院は、全国にある82の特定機能病院の1つとして高度先端医療を行い、本年5月に病床数1,154床の国内最大規模を誇る新病院棟を開院した。患者が健康になること・医療スタッフへ健康で安心な職場を提供すること・健全な病院経営を行うことを「ヘルシー・ホスピタル」という理念として掲げ、本システムの導入により、患者と医療スタッフ間、医療スタッフ同士の情報共有を推進し、医療現場におけるロスタイムを解消して患者への迅速かつ高品質な看護を実現した。

本システムは、地上19階・地下2階の病院全館に敷設された無線LANネットワークを中核に、各ベッドに設置されているナースコールや医療スタッフが保有するonefone（携帯端末）を連携させたユニファイド・コミュニケーションシステムである。SIP対応テレフォニーサーバ「UNIVERGE SV7000」、無線LANコントローラ「UNIVERGE WL5100」およびアクセスポイント「UNIVERGE WL1500-AP」を中核に構成されたインテリジェント無線LANネットワークシステムに、医療スタッフ向けonefone約800台、院内専用無線IP電話機「MH250」265台を連携した。1,000台以上の無線IP端末が導入された医療向け大規模ユニファイド・コミュニケーションシステムとしては国内初の導入事例である。

本システムの導入により帝京大学附属病院では、患者からのナースコールに対してonefoneを通じて即座に呼び出し場所や要件が医療スタッフに伝達され、患者への迅速な対応が可能になるとともに、onefoneのインスタントメッセージを活用しスタッフ間で円滑に情報伝達を行うことで患者へのより手厚い看護を実現した。

NEC UNIVERGE インフォメーションセンター TEL : 0120-75-7400
受付時間 : 9時~12時、13時~17時 (土・日・祝日・年末年始は除く)

EMCジャパン

福岡県教育センターが新しい情報基盤の
中核として「EMC Celerra NS-20」を導入

EMCジャパンは、福岡県教育センター（福岡県糟屋郡篠栗町）が、同センターの情報基盤の更新において、EMCの統合ネットワーク・ストレージ「EMC Celerra NS-20」を採用し、順調に稼働していることを発表した。

福岡県教育センターは1950年の開所以来、教育研究施設として県下の学校教育に携わる教員の育成を支援してきた。今回更新の対象となったのは、約130人の職員と研修に訪れる年間約14,000人の教員が業務のために利用する、ライフラインともいえる情報システムである。システムの移行にあたっては、日常的な施設運営や研修過程において発生し、増加し続けるデジタルデータ類の最適な格納が最大のテーマだった。特に、同センターのコミュニケーションの中核的な手段である電子メール、研修授業風景や教材等の大容量映像ファイル、各教員の過去の研修履歴という3種類の異なるデータをまとめて格納でき、さらに、今後のデータの増加にも問題なく対応して安定的に稼働する能力が求められていた。検討の結果、クラスタリング機能に優れ、高い可用性を実現するEMC Celerra NS-20が採用され、新しい情報基盤は2008年10月から本番稼働している。

福岡県教育センターでシステムの運用管理を担当している同センターの情報教育部では、EMC Celerra NS-20導入のメリットとして、①統合クラスタリング機能による高可用性、②優れたネットワーク・ポートのアーキテクチャ、③データ復旧を可能にするスナップショット機能、④データアクセスの高速化、などをあげている。

EMCジャパンでは、全国の自治体や公共団体で増加し続ける貴重なデータの保存、管理、有効活用を支援するための、様々なストレージ製品およびコンサルティングサービスを提供しており、今後も「同市場への対応を強化していく」と語っている。

EMCジャパン(株) マーケティング本部
E-mail : japanpr@emc.com

OKI ネットワークス

フォーミュラ・ニッポンのドライバーとピット間の通話を「SS9100」でサポート

OKI ネットワークスは、NTTドコモがメインスポンサーとなるフォーミュラ・ニッポンの「DOCOMO TEAM DANDELION RACING (DANDELION)」と、IPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100 TypeM (SS9100)」による、ドライバーとピット間でのピット内通話システムの実地試験を開始した。

NTTドコモでは、FOMAの通信品質の向上とともに実験成果の新商品への応用などを目的とした「F-PROJECT」を推進している。本プロジェクトでは、DANDELIONのフォーミュラマシンにFOMAの通信機材を搭載し、最高時速300kmを超える超高速走行や、急加減速、高温、振動といった「過酷条件下」において様々な通信実験を行うことで、通信技術を進化させる先進的な取り組みを進めている。

NTTドコモでは、既存のフォーミュラ・ニッポン用通話システムの更改を機に、将来的にはIP技術を活用した様々なコミュニケーションなど、顧客に対する多様なサービス提供を視野に入れ、新たなシステムの導入を検討していた。その結果、OKI ネットワークスのSS9100と、3G/無線LANデュアル端末や「Com@WILLソフトフォン」など、多彩な端末によるユニファイド・コミュニケーションを多くの企業に提供してきた豊富な実績が評価され、導入に向けた実地試験を開始することになった。

試験を進めているピット内通話システムは、ドライバーとピット内にいる監督・エンジニア・メカニックの最大60名がPHS対応のヘッドセットを介して常時接続し、同時に通話するために使用される。OKI ネットワークスでは、SS9100とPHS基地局（IP対応）約20台をレース毎に会場のピット内に設置し、フォーミュラマシンの走行において実際に通話システムを使って通話を行うことで、電波状況や通話品質などの検証を行った。

OKI ネットワークス 事業本部 プロモーションチーム
TEL : 048-420-7049

アグレックス/インフォテリア

アイリオ生命が契約データ90万件の名寄せで新旧システムの共存を実現

アグレックスとインフォテリアは、アイリオ生命保険の顧客データの名寄せ、変換・配信サーバとして、アグレックスのデータクレンジング・名寄せツール「TRILLIUM」と、国内EAIソフトウェア市場にてシェアNo.1を誇るインフォテリアの「ASTERIA WARP」が採用され、本番稼働を開始したことを発表した。

アイリオ生命は、2008年8月1日に生命保険業免許を取得し、前身であるエキスパートアライアンスの生命共済事業を承継して、シンプルでかつ分かりやすい保障内容の「6つの生命保険商品」を武器に、業界に新しい新風を吹き込んでいる企業である。同社は、共済時代から社会環境の変化に応じたIT投資を行っていた。生命保険会社化にあたり、エキスパートアライアンスからの90万件に及ぶデータの名寄せ、移行、新旧システム共存を新しく、かつ短期間で構築する必要があると考え、このIT環境の整備は、保険会社として重要な位置を占めていた。そして、様々な検討を重ねた結果、契約者のデータ重複を避け、住所のクレンジングも確実に行えるTRILLIUMと、新旧システムのデータ連携、共存をスムーズに行なえるASTERIA WARPを組み合わせたソリューションを採用した。

アイリオ生命は「ASTERIA WARPの機能を使えばGUIで開発を進められるので、9つのシステムと生命保険業務の基幹システムを連携させるのに動員したエンジニアは3~4人、期間も3ヶ月しかかかりませんでした。さらにASTERIA WARPの導入により、短期間で開発できたうえ、通常の20%程度のコストに抑えることができました」と語っている。一方アグレックスとインフォテリアは「複雑化するシステムをASTERIA WARPにより『横』の連携で幅広いシステムの連動をサポートし様々なお客様のニーズに応えて参ります」と語っている。

(株)アグレックス TEL : 03-5321-7542
インフォテリア(株) TEL : 03-5718-1297